20240214　段ボールコンポストに挑戦する学級の話

昨日は、４年生のインタビューの話をしました。
「学校では何かエコな取組をしていますか？」で始まった質問は、「校長先生自身はどうですか？」という展開になりました。
自身を振り返って、「エコバックを使っています」「買い物の時に、手前取りを心がけています」は、まず浮かびます。そして次に、「校長室では、生ゴミを出さないようにしています」と答えました。
校長室では、植物を育てています。３年前に皆さんからいただいた胡蝶蘭は、今４回目の花を咲かせています。そして、ささやかですが、校長室では植木鉢コンポストをやっています。始めは、植木鉢の土にコーヒーや緑茶の出がらしを混ぜることが中心でした。プラスチック製の植木鉢ですから、かき混ぜて空気を入れてやらないと、中の微生物たちが呼吸できなくなり、すぐに腐敗が始まって変な臭いがしてきます。でも適切に空気を入れてやると、微生物が働いて、気が付くと土と一体化してきます。臭いもありません。こうしてできた土は、他の鉢に入れていきます。さらに、給食で出るみかん類の皮をハサミで切り刻んで細かくしてこの植木鉢コンポストに入れるようにしました。給食は、常に完食していますが、みかんの皮や魚の骨などは、どうしても生ごみとして出てしまっていました。しかし、これ以降、校長室から生ゴミは一切出なくなりました。ついでにお話しますと、給食で出たみかんの種を鉢に植えたら芽が出ました。今では２０ｃｍほどに成長しています。
「このような取組でしたら、皆さんも教室でできますよ」と、段ボールコンポストについてお話しました。段ボールコンポストについては、昨年秋１０月１０日付の通信でも「**20231010　さくら学級の学びから：段ボールコンポストのすすめ**」として、皆さんにご紹介しています。この取組を学級でご紹介していただいたのでしょうか、段ボールコンポストを行っている学級は、さくら学級の他に３学級

あります。どんなに給食を完食しても、果物の皮などが生ごみとして出てしまいます。しかし、この取組を行うことでその生ごみさえ「０」にできます。さらに、肥料として生き返るのです。インタビューを終えると、「早速私たちも先生と相談してやってみます！」と、子どもたちは笑顔で校長室を後にしました。「もし、やるのでしたら生ゴミの分解を手助けしてくれる『魔法の粉』を差し上げるから取りにいらっしゃい！」と話しました。『魔法の粉』は、お米屋さんからいただいた「糠」です。日をおかずに、「クラスでやることになりました！」と、元気に子どもたちが『魔法の粉』を取りに来ました。
学校や家庭では、ゴミを「燃えるもの」「燃えないもの」「資源ごみ」に分別して出しています。ゴミを分別することは、この国では「あたり前」です。しかし、生ゴミを燃えるゴミとして出すのも「あたり前」です。生ゴミは、水分８０％です。このゴミは容易に燃えません。生ゴミは、本来「燃やす」という処理に実に不向きなゴミなのです。もし、各家庭が生ゴミを分別し、それを家庭内で処理するようになったらどうでしょう。それを試算した行政がありました。小平市程度の行政ですが、億単位の財政削減になることが分かりました。これについては、改めてお伝えしたいと思います。一緒に考えたいのは、「日常のゴミ分別の『あたり前』の質を高めていきませんか」ということです。生ゴミは、「燃やすのが当たり前」から「肥料にして活かすのがあたり前」の未来をつくっていきませんか、ということです。お隣の韓国は、国家としてその取組を軌道に乗せています。
紙についても、裏紙活用が当たり前、ペーパーレスが当たり前と、私たちは「あたり前」の質を高めてきました。「生ゴミ」についても、「これまで通り」「これまでのあたり前」にメスを入れて、この取組を通して「よりよい生き方を共に創っていくことを学ぶ学校」にしていきたいですね。